

病害虫発生予察情報（飛騨地域） 6月予報

今後1カ月は、期間の前半は天気は数日の周期で変わり、期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い予報で、病気の発生が多くなることが懸念されます。病害虫の早期発見・早期防除に努め、作物の健全な生育維持をこころがけましょう。

【水 稲】 水田を見回り、葉いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう。

【果 樹】 県下全域にカメムシ類の注意報が発表（5/21）されており、飛騨地域でも発生の増加が懸念されます。発生に注意し適期防除に努めましょう。

【野 菜】 各品目の播種時や定植時には、油断せずアブラムシ類・ネキリムシ類・タネバエ対策の粒剤施用等を実施しましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（6月）

病害虫名 発生量	防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等	
	6月						7月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
水 稲	イネミズゾウムシ 発生量：並～やや少	箱施薬がない場合の防除 ↓ 成虫									多発時には本田防除を実施する。 (防除の目安：100株当たり寄生数が30頭以上)
	イネドロオイムシ 発生量：並	箱施薬がない場合の防除 ↓ 幼虫									移動性が低いため、被害場所は常発地になりやすく、発生の多い地域がある。 多発時には本田防除を実施する。
	葉いもち 発生量：並	箱施薬がない場合の防除 ↓						発病急増期 ↑			補植苗は発生源になるので早めに除去する。 感染好適条件は平年で6月下旬頃から現れる。 BLASTAMによる感染好適条件を確認する。
果 樹	カメムシ類 発生量：多	果樹園への飛来があれば ↓						予察灯誘殺量 ↓			夜温が高いと果樹園への飛来が多い。今後、気温が高くなるにつれ、飛来は増加する。 飛来状況に注意し、適期防除に努める。
	ナシヒメシンクイ 発生量：並	フェロモントラップ誘殺量 ふ化幼虫発生盛期 ↑									被害新梢（芯折れ）の発生に注意する。 飛騨地域では定期防除の実施により、発生が問題となったことはこれまでない。
	ももせん孔細菌病 発生量：やや少	袋かけ前に実施 ↓ ← 定期防除 →									罹病枝は見つけたら切除し、ほ場外に持ち出し処分する。 袋かけ前に防除を実施する。多発するほ場では早めの袋かけて果実被害が低減できる。
野 菜 全 般	ネキリムシ類 発生量：並	← 定植・播種時粒剤散布 →						フェロモントラップ誘殺量 ↑			ネキリムシ類の潜在的発生量が多い（R5高山市フェロモントラップ例1,454頭/年）。被害が発生してからでは手遅れとなるので、定植時・播種時に粒剤を施用する。
	アブラムシ類 発生量：並～やや少	↓ 黄色水盤誘殺量									高温乾燥が続くと多発する可能性が高くなる。 防虫ネットやシルバーマルチ等で飛来を抑制する。 育苗ハウスからの本圃への持ち込みに注意する。
	コナガ 発生量：やや少	↓ フェロモントラップ誘殺量						↓			アブラナ科野菜や雑草で周年生息を続けているが、最近では飛騨での大発生はない。 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。

病害虫名 発生量	防除時期の目安と発生消長の一例									防除上の注意事項等	
	6月						7月				
	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
ホウレンソウ	べと病	[発生消長グラフ]									湿度が高く発病に好適な時期は換気を行い、発病前に予防防除に努める。 春の発生は少なかったが、油断はしない。
	発生量: やや少	← 1作1回は防除を実施 →									
	タネバエ	[発生消長グラフ]									未熟堆肥や鶏ふん等腐敗した臭いや耕起後の湿った場所に集まりやすい。 6月は例年発生が多い時期なので、播種時の粒剤散布を省略しない。
	発生量: 並	← 播種時粒剤散布 →									
ホウレンソウケガコナダニ	[発生消長グラフ]									餌となる有機物の多用は避ける。 土壌消毒前の作は、発生に注意する。	
発生量: 並	← 定期防除 →										
トマト	灰色かび病	[発生消長グラフ]									花がらが残っていると病原菌が付き、果実に発病する可能性が高くなる。花がらは早期に除去する。 6月下旬頃から葉先枯れが発生する。枯れた部分に病原菌が付くので早期に除去する。
	発生量: 並~やや多	定期防除 ↓ 葉先枯れ発生 ↓									

トマトキバガについて

1. 発生の概要

病害虫防除所では、昨年度から中山間農業研究所において、主にトマトなどナス科植物を加害する「トマトキバガ」のフェロモントラップによる調査を実施しています。昨年は9月第3半旬から10月末までに計24頭の誘殺がありました。

今年度は5月～現在までに誘殺はありませんが、西濃地域ではトマトほ場での被害事例（5月24日発表 発生予察特殊報第1号）があり、増殖力が強いことから警戒が必要です。

2. 特徴および被害の様相と対処法

- ・成虫で体長5～7mm、幼虫は終齢で約8mmと小さい。葉を薄皮状に食害し、果実には穿孔侵入する。
- ・トマトキバガの発生が疑われる場合は、速やかに農業普及課または病害虫防除所に連絡し、発生種の確認を行う。
- ・ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- ・発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果はほ場に放置せず、速やかに土中深く埋めるか、ビニル袋に入れて一定期間密封し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- ・具体的な薬剤名等、詳しくは病害虫防除所ホームページで発生予察特殊報第1号をご覧ください。



原図：農林水産省植物防疫所

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台5月23日発表)

期間の前半は、天気は数日の周期で変わってでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6～8月は「農薬危害防止期間」です

農薬の適正な使用、保管管理に努めましょう。農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて、飛散しないよう十分に配慮してください。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)